（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスYELL	公表日	8年　1月　31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	こどもが落ち着いて過ごせるよう、可能な範囲で静かなスペースを確保するよう努めている。	個別に過ごける専用スペースが十分ではないため、環境整備やレイアウトの見直しを進め、必要に応じて個別対応ができる空間づくりを検討する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	日々の支援後の振り返りを通して、職員間で気づきを共有する取り組みを行っている。	目標設定や評価に関する話し合いが一部の職員に偏りがちであるため、全職員が参画しやすい仕組みづくりが必要である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部の意見を取り入れる必要性を認識し、情報収集を進めている。	第三者評価の実施ができていないため、評価機関の選定や実施時期の検討を進め、業務改善に活かせる体制を整える。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のならい及び支援内容を踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	日々の活動内容について職員間で意見交換を行い、こどもの様子に応じた調整を行っている。	プログラム立案が特定の職員に依存しているため、チーム全体で企画・検討できる場を定期的に設ける必要がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○	季節行事やこどもの興味に合わせて活動内容を変更するよう意識している。	活動が固定う傾向があるため、新しい活動のアイデアを共有する仕組みづくりや、外部の教材・研修の活用を検討する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を する力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	保護者を通じて必要な情報を把握するよう努めている。	就学前施設との直接的な連携が十分ではないため、情報共有の機会を増やし、支援の継続性を高める必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	保護者からの相談には随時対応し、必要な情報提供を行うよう努めている。	卒業後の進路先との連携が不足しているため、移行支援の流れを整備し、情報提供の仕組みを明確にする必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		○	必要に応じて助言を求める姿勢を持ち、情報収集を行っている。	連携の機会が少ないため、センターとの関係構築や研修参加の機会を増やすことが求められる。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がある。		○	地域の活動情報を収集し、参加の可能性を検討している。	他機関との交流機会が不足しているため、こども同士の社会的経験を広げる場を積極的に設ける必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	地域連携の重要性を認識し、情報収集を行っている。	協議会への参加ができていないため、参加体制の整備や担当者の選定を進める必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	保護者からの相談には丁寧に対応し、必要な情報提供を行っている。	家族支援プログラムの実施が十分ではないため、研修や講座の開催、外部機関との連携などを検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の観点等を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	保護者との個別のコミュニケーションを大切にし、相談しやすい環境づくりに努めている。	保護者との個別のコミュニケーションを大切にし、相談しやすい環境づくりに努めている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域行事の情報を収集し、参加の可能性を検討している。	地域住民との交流機会が少ないため、事業所行事への招待や地域イベントとの連携を進める必要がある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	マニュアルの整備に向けた準備を進めている。	マニュアルの周知や訓練が十分ではないため、定期的な訓練の実施と職員への周知徹底が必要である。
	47	事務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分されたなかで支援が行われているか。		○	日々の支援のなかで安全確保に努め、危険箇所の確認を行っている。	安全計画の策定や研修・訓練が十分ではないため、計画の整備と実施体制の強化が求められる。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。		○	保護者へ必要な情報を伝えるよう努めている。	安全計画の内容が保護者に十分伝わっていないため、説明の機会を設け、理解を深めてもらう取り組みが必要である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	職員間で危険につながる事例を話し合う場を設けている。	ヒヤリハットの記録・共有が徹底されていないため、共有方法の統一や再発防止策の明確化が必要である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			